

経済学

〔I〕

1. 第1財と第2財を消費するある個人の効用関数が、効用水準を U 、第1財の消費量を X_1 、第2財の消費量を X_2 として

$$U = X_1 X_2$$

で表されるとする。この個人は初期に第1財を40単位、第2財を20単位だけ保有しており、必要に応じて市場で売買することができる。

- 1) 第1財の市場価格が1、第2財の市場価格が4であるとする。

(1) この個人の予算制約式を X_1 、 X_2 を用いて表せ。

(2) この個人の効用を最大にする第1財と第2財の消費量をそれぞれ求めよ。

- 2) 第1財の市場価格が3であるとする。この個人の効用を最大にする各財の消費量が初期保有量と同じになるときの第2財の市場価格を求めよ。

2. 労働と資本を使用してある財を生産する企業の生産関数が、生産量を Y 、労働投入量を L 、資本投入量を K として

$$Y = 2L^{\frac{1}{4}} K^{\frac{1}{4}}$$

で表されるとする。資本市場と労働市場は競争的で、資本貸貸率は8、賃金率は2である（いずれも名目値）。

- 1) 資本投入量が $K=5$ で固定されているとする。

(1) 生産に必要な労働投入量を Y を用いて表せ。

(2) 生産にかかる費用を Y を用いて表せ。

(3) 財市場が競争的で財の市場価格が100のとき、企業の利潤を最大にする財の生産量と最大利潤を求めよ。また、そのときの労働投入量も求めよ。

- 2) 企業が資本投入量を自由に調整できるとする。企業が最小の費用で20だけの財を生産するときの労働投入量と資本投入量を求めよ。また、そのときの最小費用も求めよ。

2020年度 同志社大学

経済学部 第3年次転入学・編入学試験問題

経済学

〔Ⅱ〕

1. 次の閉鎖経済モデルに関する各問に答えよ。ただし、 Y は（実質）国民所得、 C は民間消費、 I は民間投資、 G は政府支出、 T は税金をあらわす。また完全雇用（実質）国民所得は100とする。

$Y = C + I + G$	財市場均衡式
$C = 5 + 0.5 \times (Y - T)$	消費関数
$I = 30$	民間投資
$G = 10$	政府支出
$T = 10$	税金

- 1) 限界消費性向の値はいくらか。
- 2) 均衡における国民所得および民間消費量を求めよ。
- 3) 政府支出乗数を求めよ。
- 4) デフレギャップを求めよ。

2. 次の開放経済モデルに関する各問に答えよ。ただし、 Y は（実質）国民所得、 C は民間消費、 I は民間投資、 G は政府支出、 T は税金、 X は輸出、 M は輸入をあらわす。海外からの所得の純受取は0とする。また完全雇用（実質）国民所得は100とする。

$Y = C + I + G + (X - M)$	財市場均衡式
$C = 5 + 0.5 \times (Y - T)$	消費関数
$I = 30$	民間投資
$G = 10$	政府支出
$T = 10$	税金
$X = 8$	輸出
$M = 0.1 \times Y$	輸入関数

- 1) 均衡における国民所得を求めよ。
- 2) 政府支出乗数を求めよ。（分数であらわせ。）
- 3) デフレギャップを求めよ。

2020年度 同志社大学

経済学部 第3年次転入学・編入学試験問題

経済学

3. 次の閉鎖経済モデルに関する各問に答えよ。ただし、 Y は(実質)国民所得、 C は民間消費、 I は民間投資、 G は政府支出、 T は税金、 r は利率(単位は%)、 P は物価、 M は(名目)貨幣供給、 L は実質貨幣残高に対する需要をあらわす。また完全雇用(実質)国民所得は100とし、予想物価上昇率は0%とする。

$Y = C + I + G$	財市場均衡式
$C = 5 + 0.5 \times (Y - T)$	消費関数
$I = 60 - 10 \times r$	投資関数
$G = 10$	政府支出
$T = 10$	税金
$\frac{M}{P} = L$	(金融)資産市場均衡式
$L = 0.5 \times Y - 10 \times r$	貨幣需要関数
$M = 10$	貨幣供給
$P = 1$	物価

- 1) IS 曲線を導出せよ。($r =$ の式であらわせ。)
- 2) LM 曲線を導出せよ。($r =$ の式であらわせ。)
- 3) 均衡における国民所得および利率を求めよ。
- 4) 均衡における民間貯蓄量および民間投資量を求めよ。
- 5) 政府支出の増加のみによって完全雇用を達成するとき、必要な政府支出の増加量およびこの均衡で成立する利率を求めよ。
- 6) IS バランス式を用いて、5) で成立する均衡における経済全体の貯蓄と投資が等しいことを示せ。
- 7) 貨幣供給の増加のみによって完全雇用を達成するとき、必要な貨幣供給の増加量およびこの均衡で成立する利率を求めよ。
- 8) IS バランス式を用いて、7) で成立する均衡における経済全体の貯蓄と投資が等しいことを示せ。

2020年度 同志社大学

経済学部 第3年次転入学・編入学試験問題

経済学

〔Ⅲ〕以下の問いに答えよ。

1. 日本の高度成長期、特に1955～1970年の時期に関する以下の問いに答えよ。

1) この時期の産業構造の変化の特徴を、第1次・第2次・第3次産業それぞれの就業人口の動向を踏まえて簡潔に説明せよ。

2) この時期の個人消費支出の特徴を示した上で、個人消費と設備投資の循環関係について簡潔に説明せよ。

2. G・カトーナは、大衆消費社会を、非常に多くの家庭が消費財を絶えず買い替えたり、その量を増やしたりできる豊かさを持ち、その人々の消費行動が一国の経済状態に大きな影響力を持つようになった社会と説明した。その中で、消費者の購買に関する選択が所得の関数ではなくなったことを指摘し、選択時における「消費者心理の重要性」を大衆消費社会の特徴として挙げた。以上を踏まえて、この「消費者心理の重要性」が何を意味しているか考えて説明せよ。

2020年度 同志社大学

経済学部 第3年次転入学・編入学試験問題

経済学

〔Ⅳ〕以下の文章を読んで、設問に答えよ。

a.

(著作権の都合上、問題文の掲載をしております。)

(アダム・スミス『国富論』山岡洋一訳, 日本経済新聞出版社, p.1.)

b.

(著作権の都合上、問題文の掲載をしております。)

(アダム・スミス『国富論』山岡洋一訳, 日本経済新聞出版社, pp.32-33.)

c.

(著作権の都合上、問題文の掲載をしております。)

(カール・メンガー『国民経済学原理』安井琢磨・八木紀一郎訳, 日本経済評論社, p.75)

1. 上記の文章のうち、aとbは、ある学説を唱えているものと解釈されてきた。またcはその学説を批判しているものと解釈されてきた。その学説とは何か。漢字5文字または英語4 words で答えよ。
2. 上記の文章で論じられていることについて、自由に論評せよ。